

第2章 教育研究組織

目 標

- a) 大学のミッション実現のため、社会や学生の要請に対応したより良い教育・研究体制を再構築する。

現状説明

1) 教育研究組織

本学の教育組織の全体図については、添付資料東海大学 25 をご参照いただきたい。

項目番号 11)

学部・学科の組織構成と理念・目的等との関連

東海大学は 1942 年に学園を創設、翌 1943 年静岡県清水市に、東海大学の前身である航空科学専門学校を開設したことに始まる。

その後 1946 年に旧制大学令により東海大学が認可された。当時の文部省に提出された大学認可申請書には、「人文科学と自然科学の融合による確固たる歴史観、国家観、世界観を把握せしめる」とあり、これが本学の「文理融合」の教育理念となっている。

第1章の理念・目的等において前述したこの教育理念のもと、人道に根ざした深い教養をもつ有能な人物を養成すると同時に、高度の学問技術を研究教授することにより、人類社会の福祉に貢献することを目的として、20 学部 87 学科・専攻・課程を擁する総合大学となるに至った。

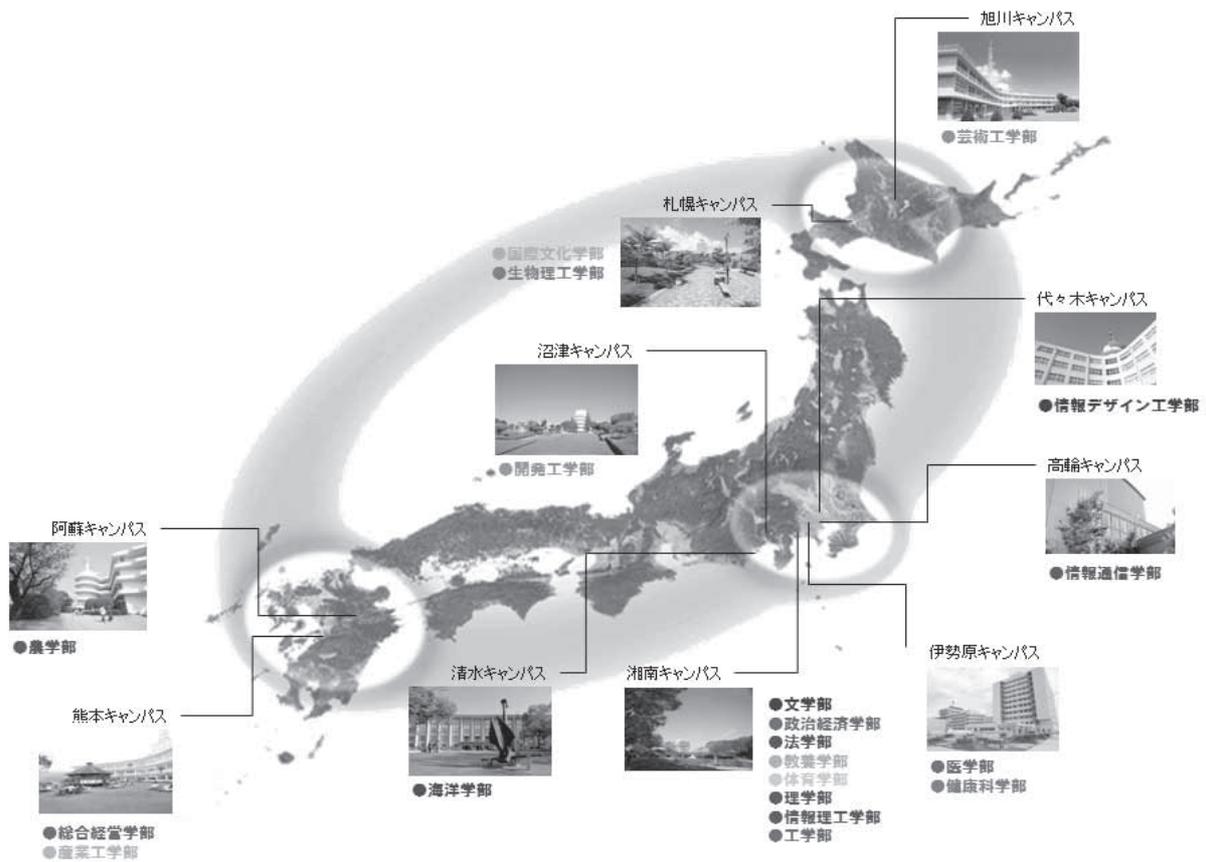
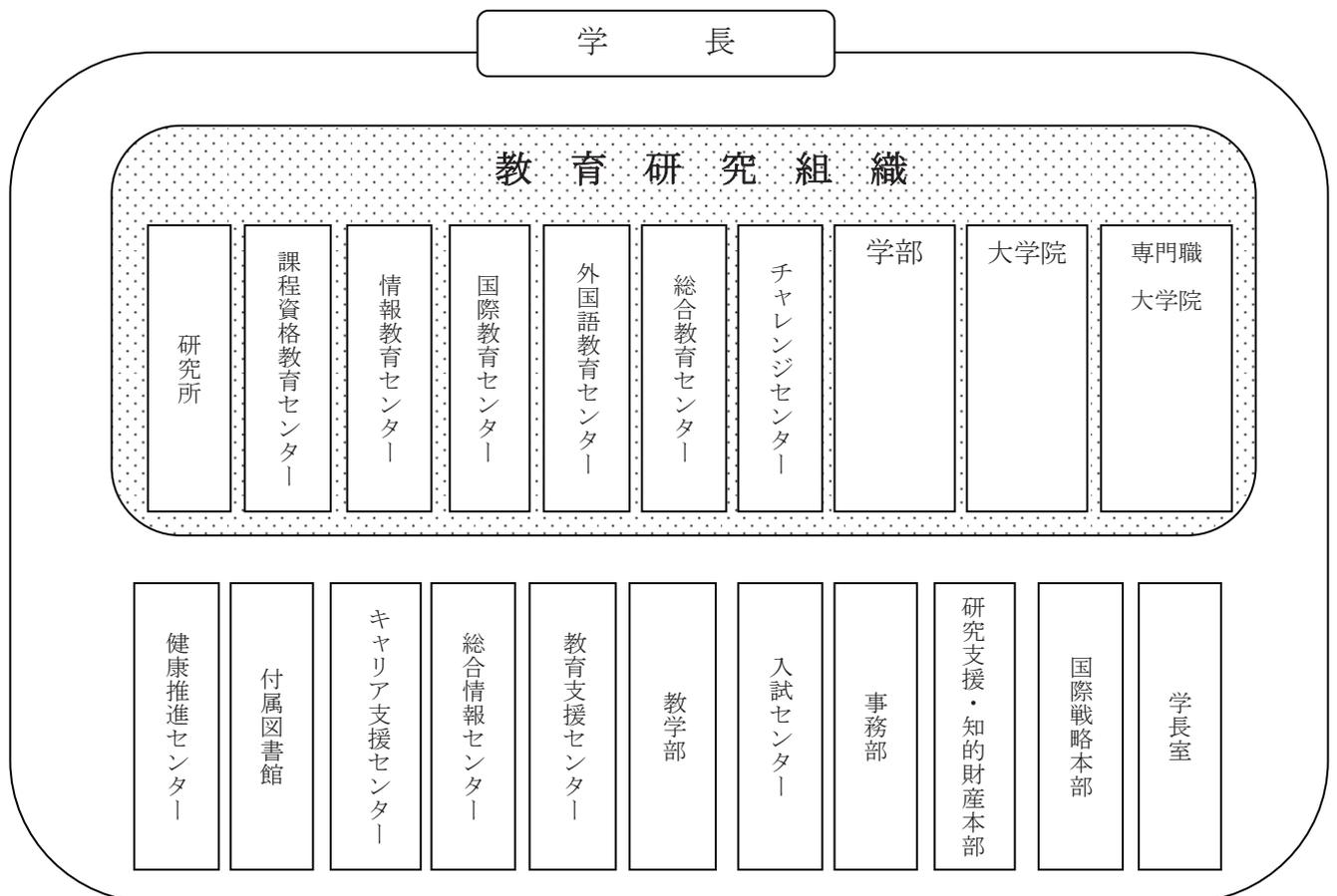


図1 全国に広がる東海大学のキャンパス（10カ所）

図2 本学の部門別教育組織概念



なお、2009年5月現在の学部・学科の一覧は次のとおりである。

| 学 部・課 程 | 学 科 ・ 専 攻 |
|-----------|--|
| 文 学 部 | 文明学科、アジア文明学科、ヨーロッパ文明学科、アメリカ文明学科、 北欧学科、歴史学科（日本史専攻、東洋史専攻、西洋史専攻、考古学 専攻）、日本文学科、文芸創作学科、英語文化コミュニケーション学科、 広報メディア学科、心理・社会学科 |
| 政治経済学部 | 政治学科、経済学科、経営学科 |
| 総合経営学部 | マネジメント学科 |
| 法 学 部 | 法律学科 |
| 教 養 学 部 | 人間環境学科 自然環境課程・社会環境課程、 芸術学科 音楽学課程・美術学課程・デザイン学課程 国際学科 |
| 国際文化学部 | 地域創造学科、国際コミュニケーション学科 |
| 理 学 部 | 数学科、情報数理学科、物理学科、化学科 |
| 情報理工学部 | 情報科学科、コンピュータ応用工学科 |
| 情報通信学部 | 情報メディア学科、組込みソフトウェア工学科、経営システム工学科、 通信ネットワーク工学科 |
| 工 学 部 | 生命化学科、応用化学科、光・画像工学科、エネルギー工学科、電気 電子工学科、材料科学科、建築学科、土木工学科、精密工学科、機械 工学科、動力機械工学科、航空宇宙学科 航空宇宙学専攻・航空操縦 学専攻 |
| 情報デザイン工学部 | 情報システム学科、建築デザイン学科（2008年度学生募集停止） |
| 芸術工学部 | くらしデザイン学科、建築・環境デザイン学科 |
| 産業工学部 | 環境保全学科、電子知能システム工学科、機械システム工学科、建築 学科 |
| 開発工学部 | 感性デザイン学科、情報通信工学科、物質化学科、生物工学科、医用 生体工学科（医用生体工学科以外は、2010年度学生募集停止、医用生 体工学科は2010年度に工学部に設置予定） |
| 海 洋 学 部 | 海洋文明学科、海洋建設工学科、環境情報工学科（2010年度学生募集 停止）、船舶海洋工学科、海洋資源学科、海洋科学科、水産学科、海洋 生物学科、航海学科 航海専攻・国際物流専攻 |
| 生物理工学部 | 生物工学科、海洋生物科学科、生体機能科学科 |
| 農 学 部 | 応用植物科学科、応用動物科学科、バイオサイエンス学科 |
| 体 育 学 部 | 体育学科、競技スポーツ学科、武道学科、生涯スポーツ学科、スポー ツ・レジャーマネジメント学科 |
| 医 学 部 | 医学科 |
| 健康科学部 | 看護学科、社会福祉学科 |
| 別科日本語研修課程 | |
| 乗船実習課程 | |

また、各学部等における教育・研究活動との連携の下に、教養教育の実施・運営および研究を行うために、以下のセンター組織を設置している。

- ア. チャレンジセンター
- イ. 総合教育センター
- ウ. 外国語教育センター
- エ. 国際教育センター
- オ. 情報教育センター
- カ. 課程資格教育センター

項目番号 12)

大学院研究科の組織構成と理念・目的等との関連

東海大学大学院は、東海大学建学の精神に則り、専門分野における高度な学術の理論および応用を教授研究し、その意義を認識すると同時に、その深奥を究め、または高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識および卓越した能力を培い、文化の創造発展と人類の福祉に貢献することを目的とし、2 専門職大学院 21 研究科 50 専攻の組織構成が行われている。

なお、2009年5月現在の研究科・専攻の一覧は次のとおりである。

| 研究科名 | 専攻名 | 修士課程・博士課程の別 |
|-----------|---|-------------|
| 実務法学研究科 | 実務法律学 | 修士課程 |
| 組込み技術研究科 | 組込み技術 | 修士課程 |
| 総合理工学研究科 | 総合理工学専攻 | 博士課程 |
| 地球環境科学研究科 | 地球環境科学専攻 | 博士課程 |
| 生物科学研究科 | 生物科学専攻 | 博士課程 |
| 文学研究科 | 文明研究専攻、史学専攻、日本文学専攻、 英文学専攻、コミュニケーション学専攻 | 博士課程（前期・後期） |
| 政治学研究科 | 政治学専攻 | 博士課程（前期・後期） |
| 経済学研究科 | 応用経済学専攻 | 博士課程（前期・後期） |
| 法学研究科 | 法律学専攻 | 博士課程（前期・後期） |
| 人間環境学研究科 | 人間環境学専攻 | 修士課程 |
| 芸術学研究科 | 音響芸術専攻 造型芸術専攻 | 修士課程 |
| 国際地域学研究科 | 国際地域学専攻 | 修士課程 |
| 理学研究科 | 数理科学専攻、物理学専攻、化学専攻 | 修士課程 |
| 工学研究科 | 情報理工学専攻、電気電子システム工学専攻、 情報通信制御システム工学専攻、 応用理学専攻、光工学専攻、工業化学専攻、 金属材料工学専攻、建築学専攻、土木工学 専攻、機械工学専攻、航空宇宙学専攻、経 営工学専攻 | 修士課程 |
| 芸術工学研究科 | 生活デザイン専攻 | 修士課程 |
| 産業工学研究科 | 生産工学専攻、情報工学専攻、社会開発工 学専攻 | 修士課程 |
| 開発工学研究科 | 情報通信工学専攻、素材工学専攻、生物工 学専攻、医用生体工学専攻 | 修士課程 |
| 海洋学研究科 | 海洋工学専攻、水産学専攻、海洋科学専攻、 海洋生物科学専攻 | 修士課程 |
| 理工学研究科 | 電子情報工学専攻、環境生物科学専攻 | 修士課程 |

| | | |
|---------|---------------|------|
| 農学研究科 | 農学専攻 | 修士課程 |
| 体育学研究科 | 体育学専攻 | 修士課程 |
| 医学研究科 | 先端医科学専攻 | 博士課程 |
| | 医科学専攻 | 修士課程 |
| 健康科学研究科 | 看護学専攻、保健福祉学専攻 | 修士課程 |

また、①総合大学の付置研究所として、建学の理念に文理融合を掲げる本学の特性を活かし、学際的・先端的な研究を国際的水準において展開する。②産・官・学の連携を取りながら、研究成果を広く社会に還元する。③本学における学術研究をリードするとともに、併せてその研究プロセスや研究成果をより質の高い教育に結びつけるよう努力する。という理念のもと、付置研究所を以下の通り設置している。

- ア. 社会連携イノベーションセンター
- イ. 文明研究所
- ウ. 海洋研究所
- エ. 総合医学研究所
- オ. 糖鎖科学研究所
- カ. 教育研究所
- キ. スポーツ医科学研究所
- ク. 総合農学研究所
- ケ. 北方生活研究所
- コ. 情報技術センター

点検・評価

<目標の達成度>

a) 大学のミッション実現のため、社会や学生の要請に対応したより良い教育・研究体制を再構築する。

2001年度の文学部と工学部の大幅な改組改編を機に、2003年度には国内でもいち早く医学部の部門制を廃止し、2005年度には東海大学を基幹大学として、九州東海大学、北海道東海大学の三大学による東海大学連合大学院（理工系・博士課程）を設置することで、九州東海大学および北海道東海大学に在籍する学生が博士課程の研究指導を受けられる環境を整備した。また2007年度には、わが国の経済力を支える製造業において、産業競争力を高める基盤技術である、と産官学で共通に認識されるようになった組込み技術に関する専門職大学院（組込み技術研究科）と、人類共通の課題として、近年多くの研究開発がされている人間環境に関する研究科（人間環境学研究科）を設置している。さらに、2008年度には、東海大学・九州東海大学・北海道東海大学が統合したことにより、目標達成に向けて組織構成がより充実したものになっていることは間違いない。

しかし一方で、類似の学部学科が増えたことにより、外部から見たときに、名称だけでその学びの内容を判断しづらくなっているのも確かであり、一部、学生の定員確保が難しくなっ

いる学科が見受けられる。

また、学部と大学院研究科のつながりについても同様のことが言える。現在の組織名称だと、学部・学科と大学院研究科専攻のつながりが分かりづらく、学士・修士・博士といった連続性が見えにくくなっている。

<長所としてあげられる事項>

- i) 社会や学生の要請に対応した学部、研究科組織に改組する計画が進行中である。

<改善が必要な事項>

- i) 類似の学部・学科が増えたことにより、第三者から見たときに、それぞれの教育内容を判断しづらくなっている。
- ii) 学生の定員確保が難しくなっている学科がある。
- iii) 現在の組織名称だと、学部・学科と研究科専攻のつながりが分かりづらい。

将来の改善・改革に向けた方策

<長所の伸長方法>

- i) 大学のミッション実現のための組織となるよう、現行の教育研究組織を常に見直し、再編成を行っていく。

<問題点の改善方法>

- i) 中期目標に基づき、学生確保が見込めない教育組織（定員の5割を3年連続確保できない教育組織）については、第Ⅱ期、Ⅲ期教育改革と合わせ、その組織構成を見直す。
（2009年度時点において、情報デザイン工学部、開発工学部（医用生体学科を除く）の学生募集や、海洋学部の改組改編、2010年度観光学部の設置等、組織の見直しが進んでいる。）
- ii) 2012年を目途に、大学院研究科の改組改編を行う。